

第3学期始業式式辞

皆さん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。中には、まだ正月気分が抜けきれない人がいるかもしれませんが、今日からは通常モードに切り替えましょう。

さて、今回は「自由」について話してみたいと思います。自由とは、「①自分の意のままに振る舞うことができること。②勝手気ままなこと。③哲学で、消極的には他から強制・拘束・妨害などを受けないことをいい、積極的には自主的、主体的に自己自身の本性に従うことをいう。④法律の範囲内で許容される随意の行為」という意味があります。

ところで、皆さんは自由という言葉聞いて何を思い浮かべますか。おそらく、保護者等や学校などから束縛されず、自分の思い通りに振る舞えることを連想するのではないのでしょうか。私自身も、高校までは、親の干渉を煩わしく思いましたし、学校の校則に対してよい思いをもっていませんでした。そのため、早く高校を卒業して、本当の自由を手に入れたいと考えていました。

ちなみに、昭和56（1981）年当時、八幡浜高校定時制に

は普通科と衛生看護科が設けられており、生徒は全日制と同じように制服を着て登校していました。当時の写真を見ると、全日制と同じ服装で活動している生徒の姿が目につきますので、おそらく今より校則は厳しかったのではないかと思います。

その少し後になりますが、尾崎豊が「卒業」という歌の中で、自分を束縛するものから早く自由になりたいという心情を切々と歌っていました。もしかしたら、この中にもテレビやインターネット等で彼の歌を聴いた人がいるかもしれません。私も教員になってから、倫理や現代社会の授業で彼の歌詞を取り上げ、生徒に自由の意味を考えてもらったことがあります。

自由には、何者からも束縛・強制されないというイメージがあります。おそらく、多くの人がそのように考えているのではないのでしょうか。しかし、それだけではないと思います。先ほど説明したように、自由には「法律の範囲内で許容される随意の行為」という意味もあります。つまり、自由だからといって何でも許されるわけではないということです。

いまひとつ言うならば、自由には責任と義務が伴います。オーストリアの精神科医であったフロイトは、「ほとんどの人間は実のところ自由など求めていない。なぜなら自由に

は責任が伴うからである。みんな責任を負うことを恐れているのだ」と述べています。

仮に彼の言うことが当たっているとすれば、大多数の人間は本当の自由を求めていることになりません。つまり、責任が伴うような自由は望まず、勝手気ままに振る舞え、束縛されない自由を求めているというわけです。

私時自身も、社会人になってから、フロイトの言わんとする自由の意味が理解できるようになりました。それまでは、どちらかというところ束縛や強制から解放される、という意味合いで自由を捉えていました。しかし、働くことによって生じる責任や義務を遂行していく中で、「本当の自由を手に入れるためには、自分自身の責任と義務を果たさなくてはならない」という考えにたどり着きました。

皆さんは、今日の話聞いてどう思いましたか。それぞれ捉え方は違うと思いますが、今後学校生活を送っていく中で、改めて自由の意味を考えてみてください。

以上で私の話を終わります。